

## 【県人会 北から南から】連合県人会

全30県人会のまとめ役 主催・協力行事も多数



同郷の学生はもちろん、他県人出身者との交流の場となる県人会。新企画『県人会 北から南から』では、各県人会の活動を紹介し、アピールする。シリーズの第1回は、各県人会をリードする「連合県人会」(以下連県)に登場してもらった。

1道29県人会の約1500人の活動を支えているのが、連県である。委員長の坂井竜くん(経営4・福岡県福島高)を中心に、4年次生の役員8人、2,3年次生の委員が各4人ずつの計16人が会計、渉外、総務、組織、神田事務の5部門に分かれて運営され、メンバーは生田会館3階の本部に詰めている。

坂井委員長は「うちの役割は各県人会、各ブロック(30道県人会を地域ごとの4つに分けたもの)が活発に活動できるよう支援すること。会員の少ない県人会、新たに立ち上げる県人会で“やる気”のあるところには積極的に協力していきます」と話す。主な行事は、新入生歓迎の青衿祭(6月8日、渋谷公会堂)、川島正次郎杯争奪野球大会(5~7月)、フレッシュマンキャンプ(7月)など。11月の鳳祭(学園祭)の参加も大きな活動で、実行委員会を設置し、連県を中心に各県人会が強力して盛り上げる。

4月は青衿祭、川島杯の準備で忙しい。広報活動の一環として5月22日には生田キャンパスでプレ青衿祭(昼=4号館前ステージ、夜=351号教室)を行う。イベントの内容は現在企画中で「多くの新入生に楽しんでもらいたい」と坂井委員長。

今後の活動については「各県人会同志、ブロック同志の交流を促進させたい。皆さんには多くの行事に参加してほしいです」と呼びかけている。

〔4月15日/ニュース専修11面〕

### 【緑地帯】20歳の症候

のっけから私事で恐縮だが、昨年11月に長男が生まれた。どうにも可愛くて、おかげで赤ん坊言葉がだんだん癖になってきた。今にゼミ中にでも「わかりまちたか」などと口走ってしまいそうだ。とにかく可愛い。起きていれば抱き上げてあやし、眠れば眠ったで寝顔を見ている。1日1日をそんな風に過ごしていま生後150日。彼は毎日ぐんぐん成長しているが、まだまだしばらくは「赤ん坊」である。この子が一応「成人」するまで20年。日数にして約7000日。前途は遼遠だ。

大学1年の時、立て続けに友人が3人死んだ。1人は自殺、1人は入部間もない登山部の合宿で転落死、最後の1人は轢死。飲み会の帰り、経堂の駅で、部の先輩が落とした荷物を拾おうとした荷物を拾おうと線路に降りたところを電車にはねられたのだという。

20歳前後の数年間はある意味で死が近い。考え方もラディカルになりがちだし、色々な意味で冒険心も強い。強い冒険心を抑制しようとは思えないし、それを強制されたくもない。つきあいもあれば見栄もある。

経堂の事故が起こった時、1人の年長の知人は「親の気も知らないで」と嘆息した。当時の私は死んだ友人への同情が先に立ち、その知人の言葉には反発を感じた。だがいま、誕生以来1日1日を重ね過ごしてきた、親の20年を7000日の思いの積み重ねを想う。

20歳前後には独特の衝動がある。それは誰もが罹患せざるを得ない症候だ。罹患は避けられない。だがそれに棹さして流されてはほしくない。(学生部)

〔4月15日/ニュース専修11面〕

## 全国から高校生ら600人参加 春のオープンキャンパス

来春、本学への入学を希望する高校生や父母たちを対象に「春のオープンキャンパス」が3月24日(日)、生田キャンパス120年記念館を中心に開かれた。

春休みの日曜日開催とあって、北海道や岡山県など遠隔地からも来校があり、例年より多い約6000人が参加した。

5階アトリウムでは個別相談や入試資料の配布などが行われた。

キャンパスツアーでは、約700台のパソコンが設置されている情報科学センターや約86万冊の蔵書を誇る図書館本館などを見学さらに小藤康夫商学部教授と下斗米淳文学部助教授による模擬授業を体験した。

東京都世田谷区から母親と参加した女子高校生は「希望する学科の入試情報が知りたくて参加しました。個別相談で丁寧に対応していただき、良かった」と話していた。

[4月15日/ニュース専修11面]